

薬事情報センターに寄せられた県民・医療従事者からの相談事例
(2013年12月)

【適正使用】

Q：使用期限切れの湿布は使用できないか？すぐに効果がなくなるのか（県民）

A：使用期限の切れた薬は使用しない。効果の減弱が直ちに起こらないかもしれないが、品質・有効性等は保証されない。重篤な副作用等が起っても、医薬品副作用被害救済制度の対象にならない。使用期限はあくまでも未開封の状態での期限で、開封後は保管状態により異なる。また、使用期限内であっても、乾燥していたり、状態が変わっていれば使用しない。

Q：ワルファリンからプラザキサTMに変更になった。飲みにくいのでつぶすか、カプセルをはずして飲んで良いか？（県民）

A：プラザキサTM内容物のみを服用した場合、カプセルでの服用に比べて血中濃度が上昇し、副作用が現れやすくなる恐れがあるため、カプセルをはずさない。

Q：当帰芍薬散を処方され服用中だが、一般用医薬品のイスクラ婦宝当帰膠と一緒に飲んで良いか？（県民）

A：生薬の4つの成分が重複している。一般用医薬品のイスクラ婦宝当帰膠は服用しない。一般用医薬品や健康食品を服用する場合は、必ず医師・薬剤師に相談する。

Q：グラクティブTMを服用中の患者。一般用医薬品のパブロンTM（エフェドリン配合、正確な商品名不明）を使用しても良いか？糖尿病の人は使用しないとなっているが？（薬局）

A：エフェドリンは血糖上昇作用があるため、グラクティブTMの作用が減弱する可能性がある。エフェドリンの使用上の注意は、一般用医薬品では「糖尿病患者に使用しない」、医療用医薬品では「慎重投与」となっている。

【相互作用防止】

Q：バイアスピリンTM、オルメテックTM、ノルバスクTMを服用中の患者。トミロンTM、NSAIDsとの相互作用は？（歯科医師）

A：NSAIDsと降圧薬（オルメテックTM、ノルバスクTM）の併用で、降圧作用の減弱の可能性がある。NSAIDsとオルメテックTMの併用で腎機能障害の可能性がある。NSAIDsとバイアスピリンTMの併用で出血傾向、腎機能低下の可能性があり併用注意。

【重複投与防止】

Q：健診で貧血気味だったので、薬局に相談しマスチゲン™Sを購入した。これに鉄分を多く含んでいる健康食品を追加して良いか？（県民）

A：一般用医薬品のマスチゲン™Sには、推奨される一日の摂取量以上の鉄分が含まれているので、マスチゲン™Sの服用だけで様子を見る。鉄は多く摂りすぎると、悪心や下痢など有害な作用を及ぼすので、摂りすぎには注意が必要。

【アドヒアランスの向上】

Q：脳のMRIで血栓ができかけていた。予防にバイアスピリン™を1日1回1錠服用中。しびれやふらつきの症状が改善しないので、1日2回飲んで良いか？（県民）

A：バイアスピリン™は血栓をできにくくする薬で、しびれやふらつきを直接改善する薬ではない。一度血小板に作用したら作用は持続するので、1日1回服用すれば効果は十分にある。2回飲むとかえって出血が起こりやすくなったりするので、医師の指示どおりに服用する。